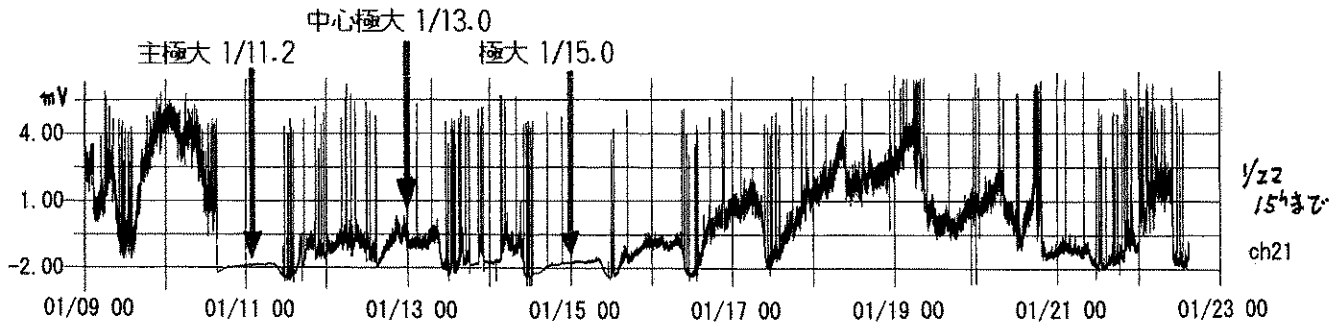


No. 1778 長期継続特殊前兆

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆続報 第13ステージ極大は双極大で中心極大=01月13.0日認識⇒2月9日±の可能性有



現在は第13ステージ認識。1/11にCH21系状特異で極大認識。1/15のCH21系状特異は副極大の可能性を考えておりました。その場合は、1/21~1/22に前兆終息が確認できる計算となりますが、上CH21波形のとおり、本日1/22午後段階でも特異状態継続中。このことから、初現並びに極大認識が根本的に間違っている可能性が考えられます。

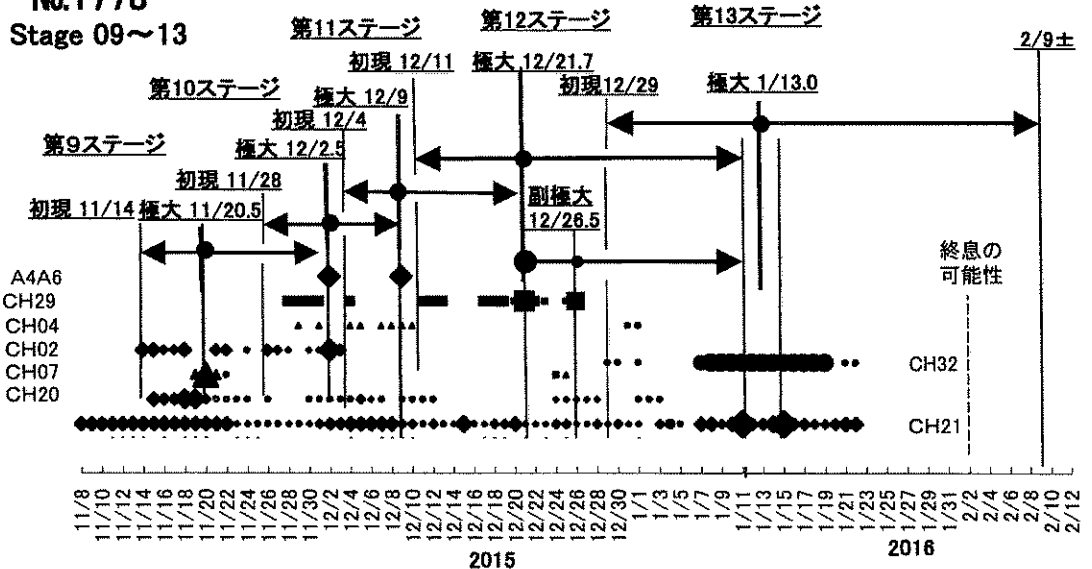
1/11.2中心のCH21系状特異と1/15.0中心の同CH21系状特異は、ほぼ同等の出現形態です。

第12ステージが示した日

は1/11±でしたので、1/11をあくまでも極大と考え、同等に出現した1/15を副極大の可能性と考えた次第です。しかしCH21系状特異の1/11と1/15が同等であること、加えて上図のCH32振動型BFの出現状況を見ますと、1/7~1/19まで、つまり1/11~1/15を中心に顕著出現している形に見えます。これらのことから第13ステージの極大は、1/11.2中心CH21と1/15.0中心CH21の系状特異によるTwin Peaks (双極大) の可能性が考えられます。

双極大の場合は中心が極大となる経験則があります。また、

No.1778 Stage 09~13



双極大間隔が4日もあることから10日以上前に初現があった可能性が示唆されます。CH32基線を逆上って調査した結果、2015年12月29日から微弱なBFが認められました。これを初現としますと02月09日±が示唆されることとなります。これが正しい場合は01月末~02

- 1/13極大 - 1/31.8終息の場合⇒ 2/7.3±
- 1/13極大 - 2/1.6 終息の場合⇒ 2/8.4±
- 1/13極大 - 2/2.4 終息の場合⇒ 2/9.4±
- 1/13極大 - 2/3.1 終息の場合⇒ 2/10.4±

月初旬に前兆終息が確認できることとなります。極大並びに初現認識誤認で01月下旬の可能性を考えておりましたが、前述のとおり再認識です。認識間違いを深くお詫び申し上げます。02月上旬以前発生の可能性は考え難い。今後の前兆終息を確認し、発生日を確定したいと考えます。

※1/17夜~18の大雪では、除雪車も来ない地域の為、膝上迄の雪を約500mリットルで3日間除雪し、1/20午後にとやっと研究室に入りました。今後再び大雪の場合は3日程度解析や情報発信が遅れる可能性もありますことご理解下さい。

- ◆推定領域：右図 大枠推定領域=点線領域内
可能性考え易い 推定域=太線領域内
※特に斜線領域付近の可能性考え易い
- ◆推定規模：M7.8 ± 0.5
- ◆推定時期：現認識が正しい場合= 2月9日 ± 1
※実際の前兆終息を確認して発生日修正予定
- ◇推定地震種：震源浅い日本列島陸域地殻地震
- ◇推定発生時刻：午前9時 ± 1 (or 午後6時 ± 3)

